

石狩川滝里ダム建設工事

受賞機関 北海道開発局石狩川開発建設部滝里ダム建設事業所

はじめに

石狩川水系空知川の中流部に位置する滝里ダムは、石狩川及び空知川の洪水調節、正常流量の確保、約4万haの農地に対する灌漑用水の補給、中空知広域水道企業団並びに江別市に対する水道用水の補給、ダムの落差を利用した水力発電を目的とした多目的ダムとして、昭和47年に予備調査を開始し、昭和54年には特定多目的ダム建設事業として本格的な実施計画調査に入り、各種の調査、試験及び検討を行い、昭和58年に建設着工した。

その後、JR根室本線の付替、国道38号の付替、ダム本体工事を終え平成11年3月1日から試験湛水を開始し5月24日には無事終了した。

また、貯水池周辺の環境整備工事を続けながら平成11年11月11日には、竣功式を挙行し、平成12年4月からは本格的なダムの供用を開始している。

滝里ダムの目的

(1) 洪水調節

滝里ダムの建設地点における計画高水流量3,600m³/sのうち1,200m³/sの洪水調節を行い、空知川、石狩川中流及び下流域22市町村の約62,000haを対象に洪水被害を軽減する。

(2) 水辺の生態系及び景観の保護

流域の自然環境を保全するため滝里ダムは、ダム直下で9.0m³/s以上の河川流量を確保し空知川及び石狩川沿川の水辺の生態系及び景観の保護を図っている。

(3) 灌漑用水の補給

滝里ダムは石狩川及び空知川沿川の約40,700haの農地に対する灌漑用水を補給する。高生産、高能率で安定した農業経営に貢献する。

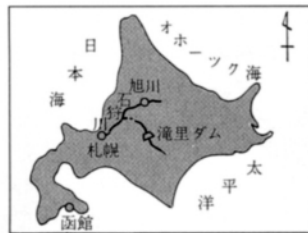
(4) 水道用水の補給

中空知広域水道企業団（滝川市、砂川市、歌志内市）に対し、新たに1日最大51,140m³、江別市に対し新たに1日最大13,960m³の合計65,100m³の水道用水を供給する。

(5) 発電

滝里ダムから灌漑用水や水道用水を補給する際の放流水を利用して、新設された北海道電力(株)滝里発電所を通して最大57,000kWの発電を行っている。なお、ダム直下

に放流する9.0m³/sの流量を利用して自家用小水力発電所で2,300kWの発電を行いダム管理施設へ電力を供給し、余剰電力については売電し、資源の有効利用、クリーンエネルギーの積極的利用を図っている。



滝里ダム位置図



サーチャージ水位の滝里ダム



ダム資料館

ダム及び貯水池諸元表

ダム位置	北海道芦別市滝里	集水面積	1,662km ²
河川名	石狩川水系空知川	湛水面積	6.8km ²
型式	重力式コンクリートダム	総貯水容量	108,000千m ³
堤高	50.0 m	有効貯水容量	85,000千m ³
堤頂長	445.0 m	常時満水位	E L. 1 50.9 m
堤体積	455,000m ³	サーチャージ水位	E L. 1 59.5 m
堤頂標高	E L. 162.0 m	オリフィスゲート	5.8m×4.1m ×6門
計画洪水流量	3,600m ³ /s	クレスト自由越流	22.0m×9.5m ×2門
設計洪水流量	4,800m ³ /s		

工事の特徴

本体コンクリート打設には、RCD工法を採用しコンクリートの運搬はバッチャープラントから堤体までベルトコンベアで、堤体内はダンプトラックで行うベルトコンベア・ダンプトラック運搬方式を採用した。2系統のベルトコンベアのうち右岸側の主コンベアには日本で初めてパイプベルトコンベアを採用した。

事業実施に伴い湛水区域からは、縄文早期から続縄文期初頭（約7千年前から約2千年前）の遺跡22カ所から90万点に及ぶ遺物が出土し、その調査には10年を要した。

現在、貯水池「滝里湖」周辺は、ダム資料館、キャンプ場、公園等が整備され北海道を代表する観光ゾーンに位置し、地域とともに発展していくことが大いに期待されている。

受賞賛助会員 (株)青木建設札幌支店、岩田建設(株)

芝原沢災害関連緊急砂防事業

受賞機関 福島県県南建設事務所

はじめに

平成10年8月26日から8月31日にかけて、福島県南部と栃木県北部は局地的集中豪雨に見舞われ各所で災害が発生したが、西白河郡西郷村真船の総合社会福祉施設「太陽の国」では土石流が発生し、入所者5名が亡くなり2名が負傷するなど甚大な被害を受けた。

崩壊地や隣接する溪床はローム等の不安定土砂で覆われており、被災後の現地調査でパイピングホールが随所に認められるなど、再度災害発生の恐れがあったため、緊急かつ短期間で砂防施設等の整備を図ったものである。

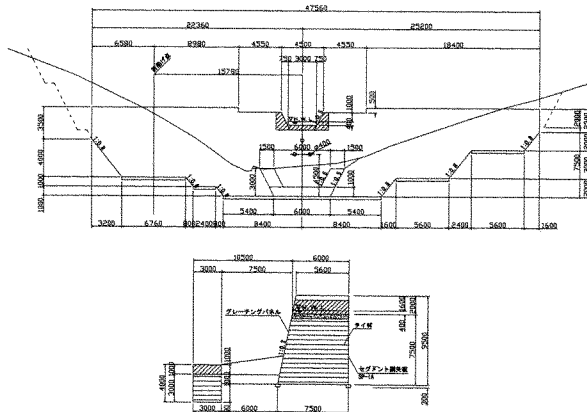
事業の概要

災害発生後、緊急に現地調査、砂防計画及び構造物設計を行った後、不安定土砂を取り除くとともに、砂防ダム3基と床固工1基からなる災害関連緊急砂防事業を実施し、平成11年7月に完成したものである。

事業の特徴

土石流発生後、緊急避難者は621名（施設定員850名）に達したため、早急な施設整備の完成を目指し、次のように事業を実施した。

- ①災害関連緊急砂防事業の性質上、被災後の測量設計をわずか2カ月で完了させ、11月初旬には工事に着手した。土砂災害現場という悪条件にもかかわらず、施工管理及び工程管理を綿密に行い着手から約5カ月間という短期間で砂防ダム3基と床固工1基を完成させた。
- ②ダブルウォール工法を採用することにより施工期間の短縮が図られ、さらに、ダムの前面緑化が可能となり、周辺の環境に配慮した砂防ダムを作ることができた。



芝原沢2ダム工構造図



芝原沢（全景）



芝原沢（近景）



土砂崩壊状況

- ③「太陽の国」内では砂防事業のほか治山事業や災害復旧事業が同時に施工されたため、施設を管理する太陽の国管理センターや農林事務所との調整を十分に重ね、進入路が限られていたという悪条件のもと、砂防施設を短期間で整備することができた。

おわりに

本事業により、土石流災害からの安全が確保され、「太陽の国」では被災後わずか5カ月後の平成11年4月には避難生活者の再入所が可能となった。

また、総合社会福祉施設が被災を受けたということで、入所者は降雨等による自然災害に対する不安を大きくしていたが、砂防施設の整備により安全が確保され、安心感を与えるという心理的効果の拡大が図られたところである。

普通河川^{まえ}前の沢・^{なか}中の沢^{さわ}の沢災害関連事業

受賞機関 財団法人 群馬県建設技術センター

はじめに

群馬県の北部月夜野町の山間部を流れる普通河川「前の沢・中の沢」は、自然豊かな「岩魚」の生息する小規模な河川である。平成10年8月26日～31日の豪雨により被災したため、災害関連事業により採択された。護岸復旧工法は、多自然型工法とし現場発生材を主材料とした。

被災原因

日 時：平成10年8月26日～31日
 連続雨量：499mm
 24時間雨量：210mm/日
 時間最大雨量：44mm/h

事業の概要

当該河川は、現況河床勾配が1/7～1/35と非常に急勾配である。所々に巨石により自然の落差工と瀬や淵が巧みに形成され河床の安定を保っていた。

工事延長：前の沢=1,047m、中の沢=941m
 縦断勾配：前の沢=1/7～1/35、中の沢=1/17(計画)
 計画流量：前の沢=25.6m³/sec、中の沢=19.5m³/sec

事業の特徴

本河川は、「岩魚」や「ホタル」が生息する河川であ



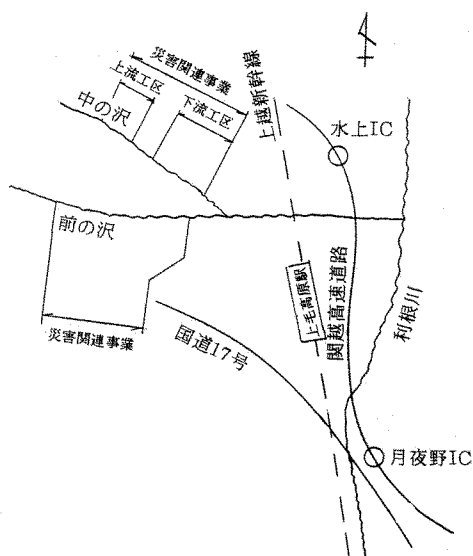
発生材による石積と河床調整



河床勾配の調整



瀬と淵



位置図

る。月夜野町は「ホタルの里」(7月中旬ホタル祭り)として環境に配慮した町づくりを行っているので、災害復旧後も生息できるよう極力発生材を利用し、多自然型の護岸で改良復旧を行った。魚の生態に詳しい専門家の指導を受け、急流河川であるが、落差工を設けることなく、魚の跳躍力を考慮し河床の石組み1段当たりの高さを設定し、さらに遡上の際に休息できるよう瀬と淵を組合せて石組みを行い、合わせて河床勾配の調整を行った。

護岸は、深目地とし特に、河床付近は魚の隠れ場所となるよう工夫を行った。

本河川は、専門家の指導のもとに、魚等の生態に沿った本来の多自然型の改良復旧を現地産の石を使用して行ったことが特徴である。

やながわ 矢那川ダム建設事業

受賞機関 千葉県矢那川・片倉ダム建設事務所

はじめに

木更津市を流れる二級河川矢那川は古くから洪水被害を受けており、その治水対策の一環として、また、「学術・研究」機能を中心とした大規模研究開発都市「かずさアカデミアパーク」の開発による流出増対策として、さらに、既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持を目的とした治水ダムとして、矢那川ダムが建設された。

事業の概要

所在地：千葉県木更津市矢那

工期：平成元年度～平成10年度

事業費：399.5億円

型式・規模型式：アースフィルダム
(傾斜遮水壁ゾーン型フィルダム)

堤高：29.3m

堤頂長：284m

堤体積：600,000m³

総貯水容量：1,720,000m³

有効貯水容量：1,600,000m³

洪水調節容量：1,400,000m³

不特定容量：200,000m³

事業の特徴

ダムは矢那川本川に適地がないことから支川の田高川に設置し、本川の洪水を導水路で貯水池に流入させ、洪水調節はオリフィスによる自然調節方式を採用している。

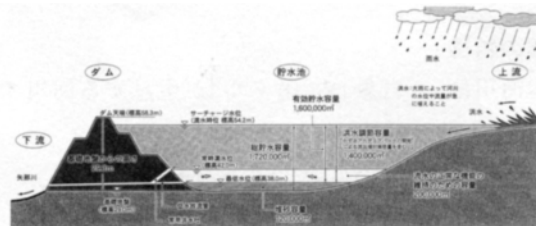
構造的な特徴として、基礎が洪積世の低固結の砂質地盤のため、基礎幅を広くし、土質ブランケットによる浸透流対策を採用している。また、堤体の遮水材には治水ダムとしては初めて関東ロームを使用



全景



堤体下流部



概略図



環境整備（水辺の広場）

し、堤体の表層保護には近傍で適当な材料が得られないことからソイルセメントで施工している。

環境整備にあたっては、ダム堤体下流面に環境盛土を施工し、植栽及び各種施設整備を実施し、一般に開放している。なお、堤体面に盛土を施工するにあたり、各種計器を設置し安全確認している。

ダムは、治水対策はもとより、広大なスペースを活かした環境整備を進め、周辺の自然環境や景観とも調和を図っている。

受賞賛助会員

鹿島建設(株)東京支店、五洋建設(株)東京支店東関東営業所、清水建設(株)、東亜建設工業(株)千葉営業所、(株)フジタ千葉支店、三井造船(株)、三井不動産建設(株)東関東支店、若築建設(株)千葉支店

ちいさ がた ぐん とう ぶ まち かな ぼら がわ
小県郡東部町金原川 国補 金原川総合開発事業

受賞機関 長野県上田建設事務所

はじめに

東部町は長野県の東部、浅間連峰、湯の丸、烏帽子連山を背景とする南西斜面に位置し、平行する大小15の河川が千曲川に流れ込んでいる。

これらの河川は勾配が急なため、ひとたび大雨が降れば一気に流下し、烏帽子岳を源とする金原川の沿川も過去幾度となく災害に見舞われてきた。

一方、当地域は内陸性気候のため、年平均降水量が900mm程度と全国的にも少なく、また最近の都市化の進展等に伴う水需要の増大からも、ダムの建設が望まれてきた。

事業の概要

工事主体：長野県
 位置：長野県小県郡東部町大字和
 目的：①洪水調節
 ②既得取水の安定化と河川環境の保全等
 ③水道用水
 工期：昭和63年度(事業採択)～平成11年度
 総事業費：130億円
 集水面積：3.15km²
 湛水面積：0.04km²
 総貯水容量：38.8万m³
 有効貯水容量：27.7万m³
 型式：傾斜コア型ロックフィルダム
 堤高：36.5m
 堤頂長：224.0m
 堤体積：47万m³

事業の特徴

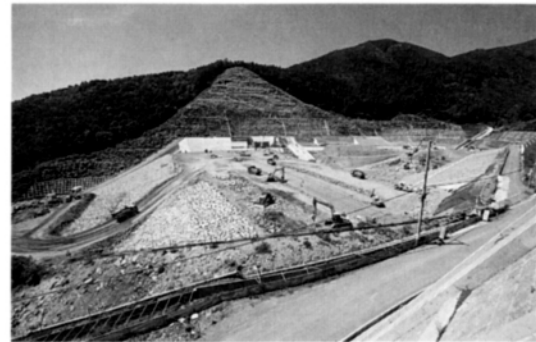
当ダムの特徴を以下に示す。



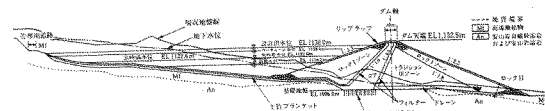
盛立材料製造設備全景



土質ブランケット施工状況



堤体盛立と土質ブランケット施工状況



ダム標準断面図

- (1) 急流河川のため、貯水容量を確保するのに河床を掘削
- (2) 本体及び貯水池掘削による発生材を、堤体盛立材料等（コア材の一部を除く）に有効利用
- (3) 透水性の高い基礎地盤の改良をカーテングラウチングで行うことが困難なため、貯水池全面に土質ブランケット（コア材と同一材料）を張る表面遮水工法を採用

また、別に原石山を確保しないことで環境への影響を最小限に抑えられ、巨石や残土を他の公共事業（河川護岸等）に利用することでコストの縮減を図ることができた。

今後当ダムの例が、同様の条件で建設困難と思われていた箇所にとっての参考になれば幸いである。

受賞賛助会員 ㈱大林組北陸支店、東急建設㈱関東支店

愛本床止工災害復旧事業

受賞機関 建設省北陸地方建設局黒部工事事務所

はじめに

黒部川は、北アルプスの中央部に位置する鷲羽岳(2,924m)に源を發し、山岳部平均勾配 1/5~1/80のわが国屈指の急流河川である。黒部川上流から流出する大量の土砂は、狭窄部である愛本地先を扇頂とし半径13.5km、扇頂角約60度、勾配約1/100、面積120km²の日本を代表する扇状地を形づくっている。

愛本床止工は、黒部川扇状地の扇頂部に位置し、本施設の機能低下が下流の河川管理施設に大きな影響を及ぼすため、河川改修計画上非常に重要な施設で、床止ケーソン工、側壁、帯工、練石張被覆工、護床工等により形づくられ、総称して愛本床止工と呼んでいる。

事業の概要

愛本床止工は、昭和58年から昭和61年まで4年かけて改築された施設であるが、平成9年5月発生洪水により施設の欠損・摩耗、側壁背面の土砂吸い出しによる大空洞化、60t護床ブロックの流失及び局所洗掘等大きく被災したため、直轄河川災害復旧事業・災害関連緊急事業により、再度災害の防止を目的として既設床止工を復旧し、さらに床止ケーソン下流の異常洗掘を防止するために水叩工、護岸補強擁壁工等を設置し、既設床止工全体の治水機能を回復させたものである。

事業の特徴

事業の特徴としては、限られた期間内での工事完成と改築後11年で被災したため、施設の目標耐用年数を30年とした欠損・摩耗対策がある。

(1) 工事期間の短縮

下流端護床工(60tブロック)の現場打ちコンクリート施工では4カ月かかるが、出水期間中の施工として外枠部のみプレキャストブロック化したことにより3カ月の工事期間の短縮を図った。また、コスト縮減も兼ねて既設コンクリートを最大限利用し、コンクリート取り壊し量の軽減を図った。

(2) 欠損・摩耗対策

玉石混じり土砂を含有する洪水流の衝撃エネルギーに対応するため、高強度コンクリート対策の他に次の対策を講じた。

①耐摩耗ゴム製弾性板対策工

耐摩耗ゴム製弾性板は、当事務所の砂防ダム水通し天



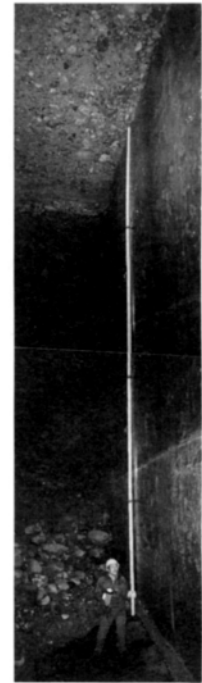
完成した愛本床止工



帯工等の欠損・摩耗状況



床止ケーソンの欠損・摩耗状況



側壁背面の大空洞

端で施工実績があり、十分な機能を発揮していることから、コストの高い難点があるものの著しい欠損・摩耗の防止を重要視し、帯工及び床止ケーソン工天端の対策として採用した。

②レール補強による摩耗対策工

床止ケーソン工下流の異常洗掘を防止するため、3m厚の水叩工を施工したが同箇所に設置されていた60t護床ブロックが流失した実績から流出する玉石等を滑落させることとして、水叩天端のエネルギー集中部にレール補強摩耗対策工を考案し、実施した。

おわりに

全国屈指の急流がゆえに洪水の流出が早く、流量も多くかつ川幅60mの狭窄部であること、厳冬期間の重点施工、工事期間の限定(13カ月)等数多くの困難な施工条件や制約の中で、設計施工や安全管理にあらゆる創意工夫をこらすとともに、関係機関や住民の方々の絶大な理解・協力を得て、無事故で限定期間内に事業を完成させることができた。

受賞賛助会員 ㈱銭高組北陸支店

しのぶ砂防ダム親水整備事業

受賞機関 建設省北陸地方建設局神通川水系砂防工事事務所

はじめに

岐阜県の北端に位置する上宝村は、富山湾に流れる神通川の支流高原川の上流部にあたり、豊かな自然環境の中部山岳国立公園や活火山焼岳を含む北アルプスを有し、奥飛騨温泉郷として観光が盛んである。しかし、北アルプスの急峻な地形と火山堆積物などからなる脆弱な地質で、現在でも土砂災害が発生し易い状況を踏まえて、景観や自然環境に配慮した砂防ダムを施工した。



しのぶ砂防ダム親水整備事業全景

事業の概要

本事業は活火山焼岳の麓の岩坪谷や餌掛谷等の荒廃溪流をもつ平湯川の下流域を土砂災害から守るための施設を施工するもので、平成8年度から着手し、親水整備事業を含め平成11年5月に完成した。

ダム高10.5m、堤長112m、貯砂量約2万m³、魚道工約320m



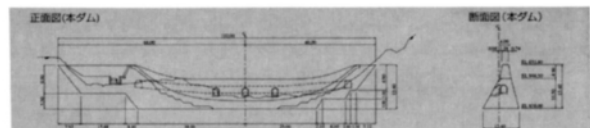
しのぶ砂防ダム

事業の特徴

①景観への配慮

施工場所は、奥飛騨温泉郷の一つである新平湯温泉地内である。当地域は中部山岳国立公園の玄関口でもあることから、周辺の豊かな自然に溶け込むようにダム表面には現地の自然石1万個以上を積み上げ、角に丸みを持たせることで柔らかみを与えるなど、景観に配慮している。また、巨石積みによりコンクリート量を縮減し、コスト面でも効果を発揮している。

②砂防学習の場



ダム構造図

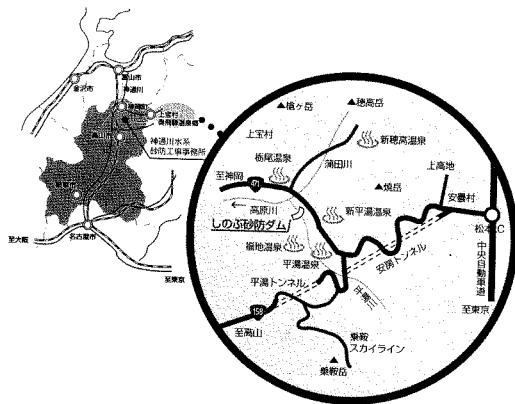
右岸のバイパス式魚道は、長さ約320mあり生態系に配慮し、魚の遡上が観察できるガラス窓を設置している。これは平成9年に上宝村が行った砂防学習村宣言に相応しい砂防学習の場としても活用できる施設を施工した。

③左右岸の交流

砂防ダムとしては国内初の砂防ダム内に通路を設け、左右岸の往来を可能とし、平時の使用による地域活性の一助としても期待できる。

④親水性

護岸は自由に河床に降りられる、親水性に優れた緩傾斜階段護岸を採用し、憩いの場としての活用ができる。



位置図

おわりに

現在、冬期間において上流側の滝をライトアップして、さらなる地域活性化のための活用を図っている。

阪神淡路大震災からの復興～緑の防潮ラインの創出～

一級河川淀川水系中島川災害復旧助成事業

受賞機関 兵庫県尼崎港管理事務所
兵庫県県土整備部土木局河川課

はじめに

中島川・左門殿川は、兵庫県南東部と大阪府との境を流れて大阪湾に流入する一級河川である。

本河川の右岸堤防は、昭和28年に建設され、その後、地盤沈下による防潮機能の低下のため、2度の嵩上げ補強が実施されてきた。

事業の概要

平成7年1月の阪神淡路大震災により、右岸堤防に沈下(最大1.8m)、護岸のひび割れ(最大15cm)が生じ、満潮時には周辺の工場及び民家が床下浸水する等の被害を受けた。

尼崎市は、市域の1/3が海拔0m地帯であり、次期出水に甚大な被害が想定されることから、再度の被害を防止するには、被災箇所だけの原形復旧では不十分なため、河口からの3,490mが災害復旧助成事業として採択され、平成12年3月に竣工した。

事業の特徴

(1) 本体構造物

防潮堤には逆T式擁壁護岸工を採用し、その前面に低水護岸を設置することにより、複断面構造による堤体の強化、耐震性の向上を図った。

(2) 環境整備

兵庫県と尼崎市が共同で、「中島川リフレッシュ計画」検討会を開催し、都市に残された貴重な河川空間を有効に活用し、環境改善となる新たな水辺空間の創造を目的とした環境整備計画を策定した。

①高水敷の道路(防災ふれあい道路)

震災の教訓を生かし、高水敷に幅3mの通路を設け、



位置図



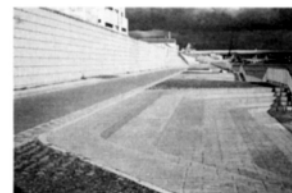
全景



樹木植栽



人工干潟



階段護岸

防災機能(避難路・緊急車両用通路)の拡充を図るとともに、平常時には散策・ジョギング・サイクリング等に利用可能とした。

②緑地・植樹・人工干潟

『緑の防潮ラインの創出』をテーマに堤内側の法面、高水敷にはチガヤ等を、また、一部の高水敷には中低木を植栽し木陰を提供した。

また、自然とのふれあいを目標に人工干潟(L=180m・W=8.5m)を設け、塩性植物を植栽しバードサンクチュアリーを設けた。

③階段護岸・芝生広場

水辺のふれあい・スポーツの場として、階段護岸を2カ所(L=224m)と芝生広場(A=24a)を設けた。

おわりに

本事業を進めるにあたり、ご指導、ご支援を頂いた建設省をはじめ、ご協力頂いた関係機関並びに県外からの派遣職員の方々に感謝申し上げます。

中島川・左門殿川が新しい兵庫県の東の玄関として生まれ変わり、水と親しむ人々の笑い声がわき上がることを期待しています。

受賞賛助会員

㈱建設技術研究所大阪支社、㈱鴻池組神戸支店、国土総合建設㈱神戸営業所、五洋建設㈱神戸営業支店、㈱銭高組神戸支店、高田機工㈱、東亜建設工業㈱神戸営業所、ドービー建設工業㈱神戸事務所、日本技術開発㈱大阪支社、丸誠重工業㈱、寄神建設㈱

渋川海岸環境整備事業

受賞機関 岡山県岡山地方振興局玉野建設事務所

はじめに

渋川海岸は、瀬戸内海国立公園に位置し、昭和62年度に「日本の白砂青松100選」に選定されるとともに、平成9年度に「日本の海水浴場55選」に選定された年間約40万人の海水浴客の訪れる県下最大の海水浴場である。また、海浜背後には渋川青年の家、玉野海洋博物館などの研修、観光施設などが整備され、年間を通じて利用客が多い。

しかしながら、近年、波浪や潮流の影響で砂浜が浸食され、台風時には高波が護岸を乗り越え、背後地が冠水するなどの被害が発生していた。

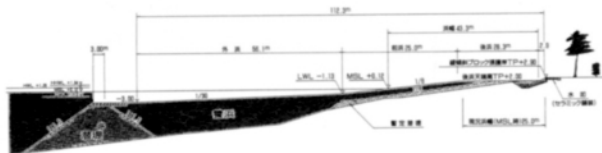
このため、失われた海浜を復元することで、波浪災害に対する面的防御効果を発揮させるとともに、ゆとりと親水性豊かな海浜の創出を目指して、海岸環境整備事業に着手したものである。

事業の概要

- 実施機関：岡山県
- 実施期間：平成3年度～平成11年度
- 事業費：1,947百万円
- 所在地：岡山県玉野市渋川
- 施設概要：人工海浜 75,000m²
 (養浜砂 275,000m³)
 緩傾斜護岸 630m
 潜堤 560m

事業の特徴

整備にあたっては、防災面での安全性の確保、砂浜の安定性の確保、ゆとりと親水性豊かな海浜の創



標準断面図



平面図



WELCOME TO THE SHIBUKAWA BEACH
 (鳩が待っている竣工間もない渋川海岸)



ゆとりと砂の肌触りが抜群で、
 瀬戸大橋（児島～坂出）も展望できる渋川海岸

造、背後地と海浜との調和、瀬戸内海の景観美との調和を図る景観の保全等を踏まえ、緩傾斜護岸、養浜、潜堤等からなる面的防御方式を採用した。

養浜（覆砂）については、瀬戸内海の景観美との調和及び海水浴場としての利用面から特に、質、量、色調及び肌触り等を考慮し、中央粒径1mm、色調も現地砂に近く、丸みを帯びた中国産の購入砂を選定するとともに、養浜（埋土）については、養浜砂に替えて岩砕土砂を使用し、コストの縮減を図った。また、緩傾斜護岸及び水叩等についても砂浜との色調の調和に配慮した。

本事業の完成により、高潮、波浪等に対する防災面の安全性が大幅に向上したことはもとより、浜幅が施工前の約2倍となり、四季を通じて多くの人々に利用されている。

受賞賛助会員 津国興産㈱

東与賀海岸堤防耐震対策工事（シチメンソウ保護育成）

受賞機関 建設省九州地方建設局筑後川工事事務所

はじめに

本事業は、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災を契機として、有明海の湾奥に位置し、県都佐賀市をはじめとする多くの地域を背後地に擁する東与賀海岸において、緊急的に海岸堤防の耐震対策を実施したものである。

事業の概要

東与賀海岸堤防の耐震対策については、学識経験者や地元関係者からなる研究委員会を開催し、堤防整備計画や耐震対策工法（緩傾斜・押さえ盛土工法）等を決定した。具体的には、海側及び陸側の延長約1.6km、幅50～200mにわたり、緩傾斜・押さえ盛土工法を実施した。一部区間においては、地盤改良工法を用い、耐震対策を実施することとした。

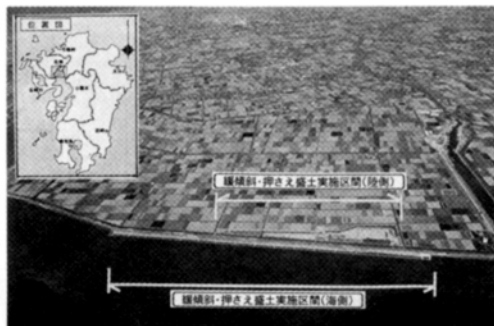
また、環境面・利用面に配慮し、背後地に町が予定している公園計画とも整合のとれた付加価値の高い海岸堤防とした。

さらに、耐震対策の実施に伴い、堤脚部に自生している貴重な塩生植物である「シチメンソウ」の群落地に盛土を施工することとなるため、保護育成対策も併せて実施することとした。

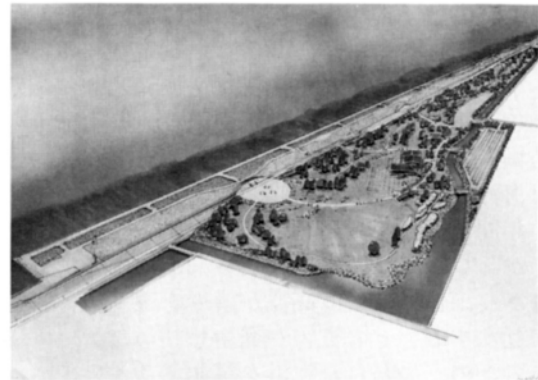
なお、本事業は、生態系や自然景観等の周辺の自然環境に配慮した海岸整備を行う「エコ・コースト事業」に指定されている。

事業の特徴

当地区には地元東与賀町の観光資源であり、貴重



東与賀海岸



整備イメージ図



シチメンソウまつりで賑う東与賀海岸

な塩生植物であるシチメンソウ（環境庁レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）が自生しているが、耐震対策によりその自生地が失われるため、新たに移植ヤードを造成し移植するなどの保護育成を行った。

また、保護育成にあたっては、東与賀町、地元小中学生、地元ボランティア団体等も播種や海岸清掃等に参加する等、地域と一体となって保護育成を行った。その結果、平成11年の秋には移植ヤード全面において見事に紅葉し、多くの観光客や地域住民を楽しませており、シチメンソウを観光資源とした町づくりに寄与している。

受賞賛助会員

日特建設(株)九州支店、日本鋼弦コンクリート(株)九州営業所、松尾建設(株)